

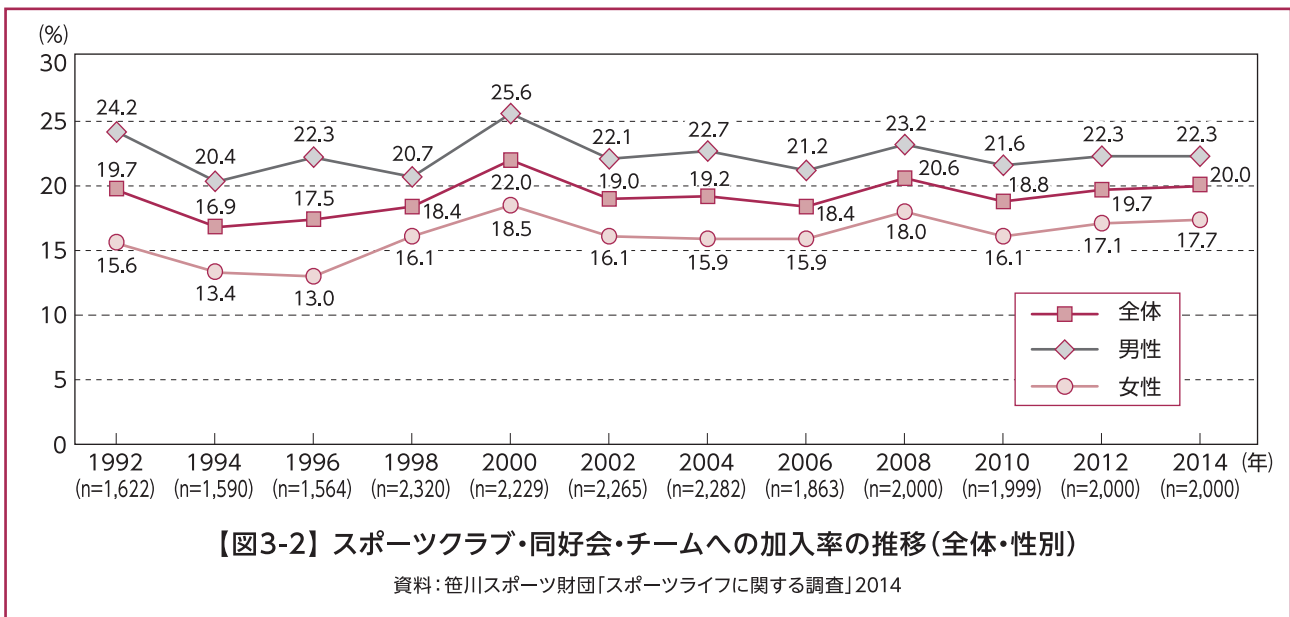
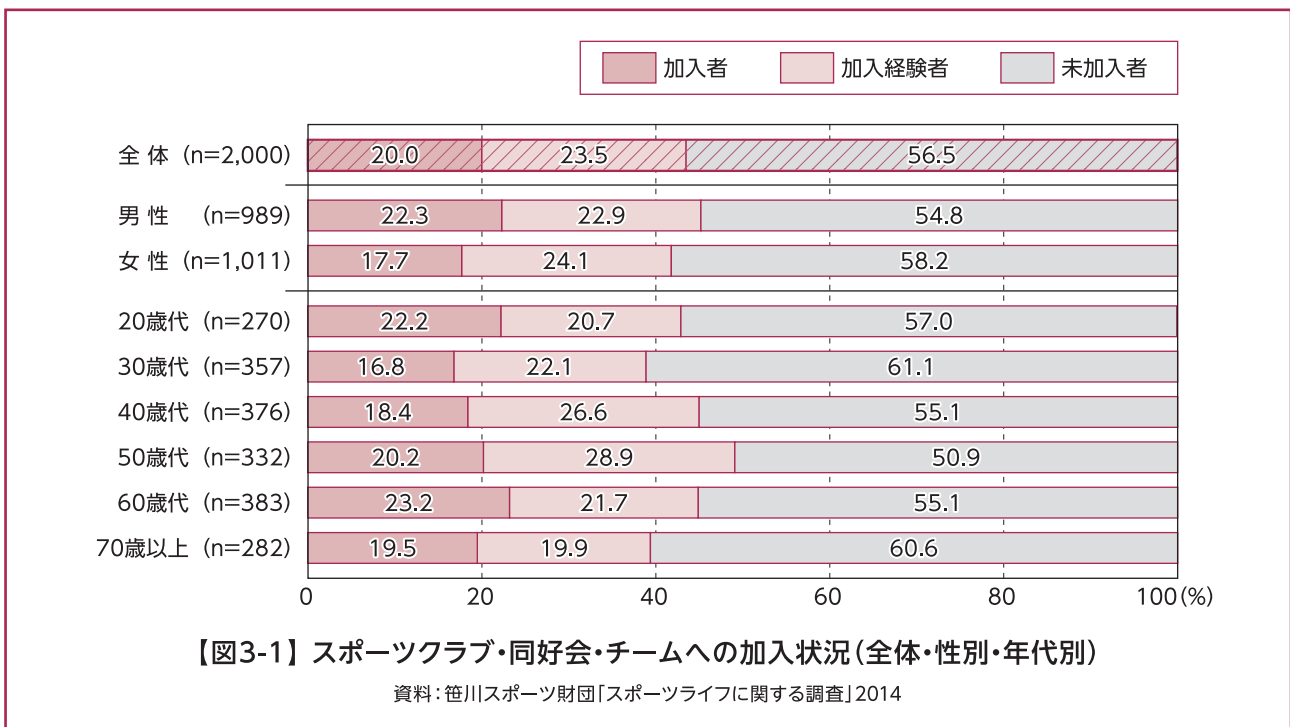
3 スポーツクラブ・同好会・チーム

3-1 | スポーツクラブ・同好会・チームへの加入状況

スポーツクラブや同好会・チーム（以下、スポーツクラブ）への加入状況をたずねた。「加入している」（加入者）は20.0%、「過去に加入していたが、現在は加入していない」（加入経験者）は23.5%、「これまでに加入したことはない」（未加入者）は56.5%であった（図3-1）。

過去10年間におけるスポーツクラブ加入率の年次推移をみると、全体では2004年19.2%、2006年18.4%、2008年20.6%、2010年18.8%、2012年19.7%、今回調査20.0%と横ばいで推移している（図3-2）。調査を開

過去10年間におけるスポーツクラブ加入率の年次推移をみると、全体では2004年19.2%、2006年18.4%、2008年20.6%、2010年18.8%、2012年19.7%、今回調査20.0%と横ばいで推移している（図3-2）。調査を開

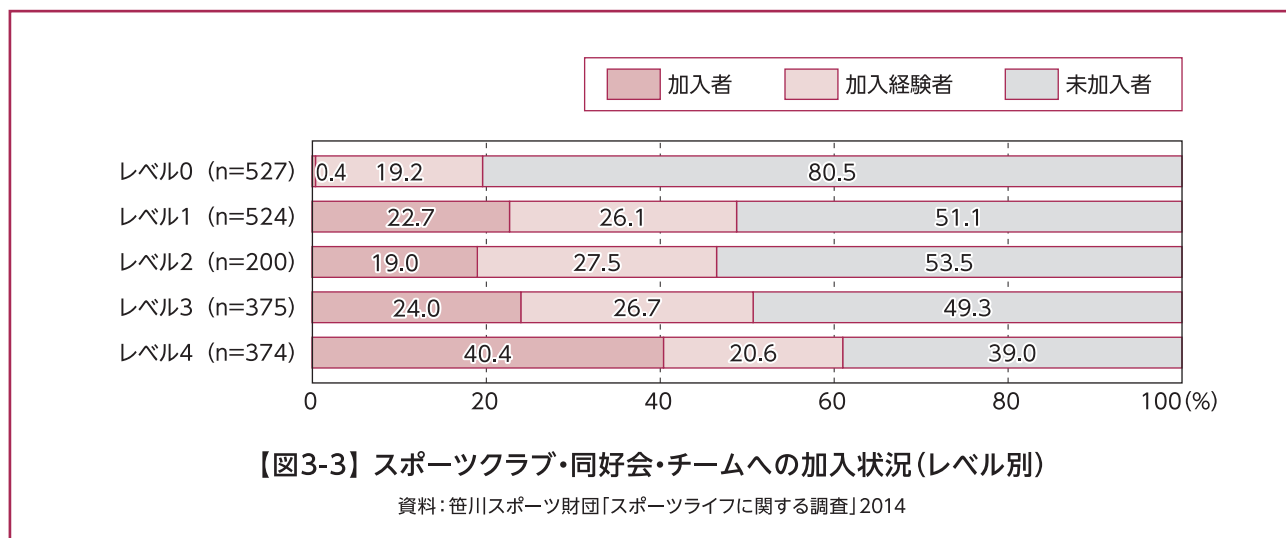


始した1992年から過去22年間の推移をみても横ばい傾向は続いている。

性別にみると、男性は2004年22.7%、2006年21.2%、2008年23.2%、2010年21.6%、2012年22.3%、今回調査22.3%と、過去10年間2割強で推移している。女性は2004年15.9%、2006年15.9%、2008年18.0%、2010年16.1%、2012年17.1%、今回調査17.7%と、2012年調査から0.6ポイント増加しているものの、16～

18%程度で推移しており、大きな変化はみられない。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル0」と「レベル4」に大きな特徴がみられた(図3-3)。「レベル0」では加入者が0.4%とほとんど存在せず、未加入者の割合が80.5%と高い値を示した。一方、「レベル4」では加入者の割合が40.4%と最も高く、未加入者の割合は39.0%と最も低い。



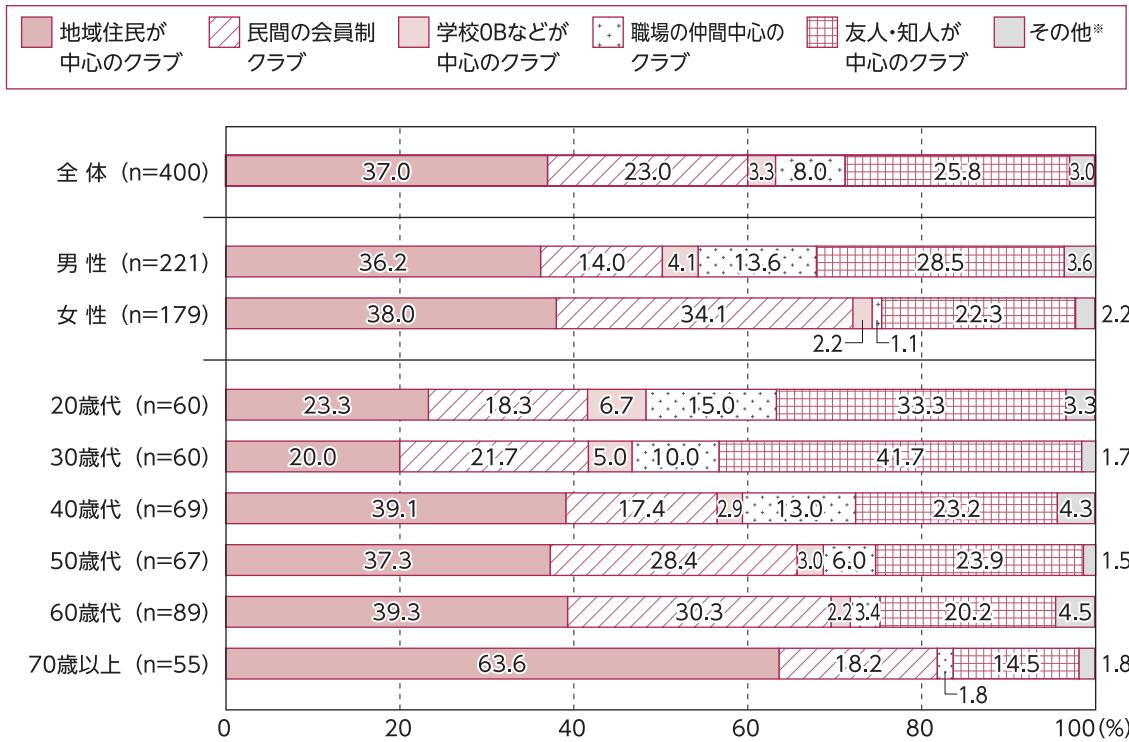
3-2 | スポーツクラブ・同好会・チームの形態

スポーツクラブ加入者について、加入しているスポーツクラブの形態をみた(図3-4)。全体では、「地域住民が中心となったクラブ・同好会・チーム」(地域住民が中心のクラブ)が37.0%と最も高く、次いで「友人・知人が中心のクラブ」が25.8%、「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ」(民間の会員制クラブ)が23.0%の順となっている。

性別にみると、男女ともに「地域住民が中心のクラブ」が36.2%、38.0%と最も加入率が高い。次いで、男性は「友人・知人が中心のクラブ」28.5%、女性は「民間の会員制クラブ」34.1%であり、男女で加入しているスポーツクラブに違いがみられる。また、男性では「職場の仲間を中心としたクラブ・同好会・チーム」(職場の仲間中心のクラブ)の加入率が13.6%であり、女性の加入率1.1%を12.5ポイント上回る。

年代別にみると、年代が上がるにつれて「地域住民が中心のクラブ」への加入率は高くなる。20歳代23.3%、30歳代20.0%と2割程度であるのに対し、40歳代39.1%、50歳代37.3%、60歳代39.3%と40～60歳代では4割、70歳以上では63.6%と6割以上となる。一方、「友人・知人が中心のクラブ」は20歳代では3割、30歳代では4割を占める。

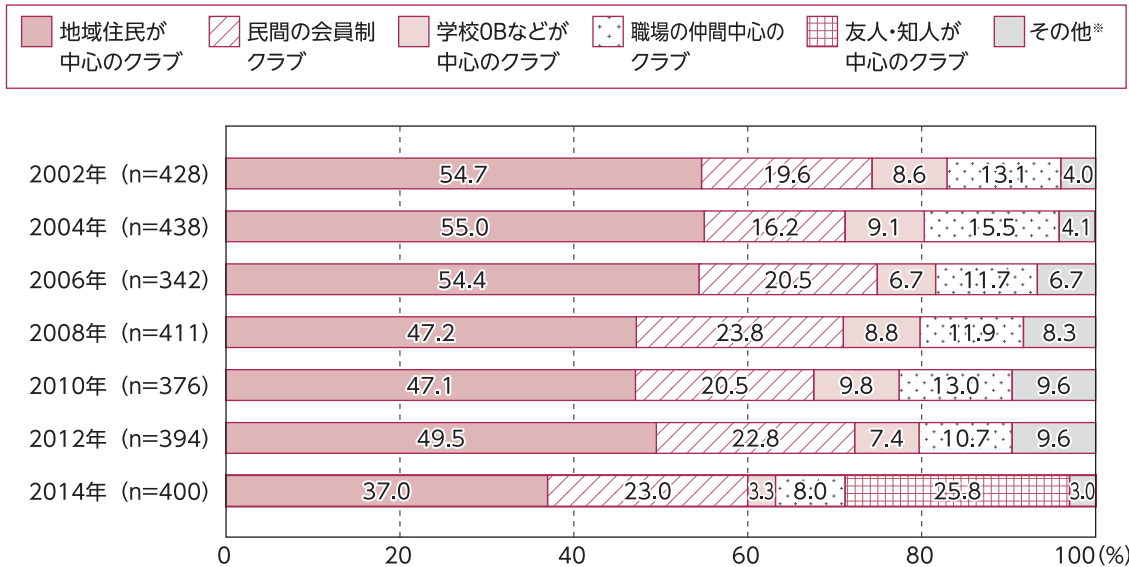
スポーツクラブへの加入形態を年次推移でみると、「地域住民が中心のクラブ」への加入率が最も高い傾向は変わっていないが、5割前後で推移してきた過去調査と比較して、今回調査では37.0%と大幅に減少した(図3-5)。今回調査からスポーツクラブの形態をより詳細に把握するため、選択肢に「友人・知人が中心のクラブ」を追加したところ、25.8%と全体の回答の1/4を占めた。この結果が「地域住民が中心のクラブ」や「学校のOB・OGなどが中心となったクラブ・同好会・チーム」(学校OBなどが中心のクラブ)、「職場の仲間中心のクラブ」の割合に影響を及ぼしたと考えられる。「民間の会員制クラブ」は2割程度で大きな変化はみられなかった。



【図3-4】 加入しているスポーツクラブ・同好会・チームの形態(全体・性別・年代別)

※その他:「競技者の団体・クラブ」「子どものチーム・クラブ」など。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014



【図3-5】 加入しているスポーツクラブ・同好会・チームの形態の年次推移

※その他:「競技者の団体・クラブ」「子どものチーム・クラブ」など。

注)「友人・知人が中心のクラブ」は2014年調査から新たに追加した選択肢。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

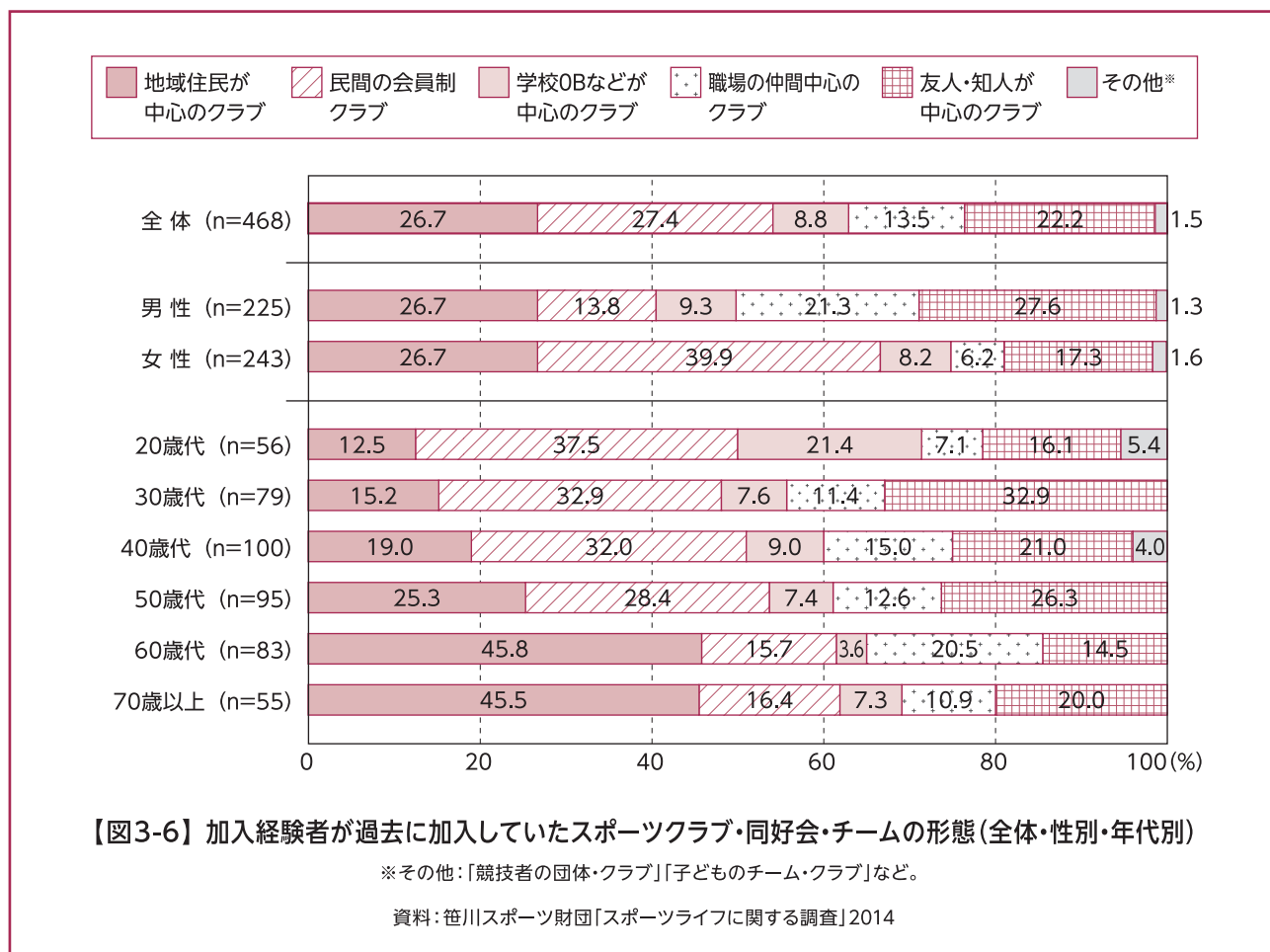
3-3 過去に加入していた スポーツクラブ・同好会・チーム

スポーツクラブ・同好会・チームに、過去に加入していたが、現在は加入していない者（加入経験者）に対して、過去に加入していたスポーツクラブの形態をたずねた（図3-6）。全体では、「民間の会員制クラブ」が27.4%で最も高く、「地域住民が中心のクラブ」26.7%、「友人・知人が中心のクラブ」22.2%、「職場の仲間中心のクラブ」13.5%と続いた。

性別にみると、男性は「友人・知人が中心のクラブ」が27.6%で最も高く、次いで「地域住民が中心のクラブ」

26.7%、「職場の仲間中心のクラブ」21.3%であった。女性は「民間の会員制クラブ」の39.9%が最も高く、次いで「地域住民が中心のクラブ」26.7%、「友人・知人が中心のクラブ」17.3%であった。女性は男性に比べて「民間の会員制クラブ」に加入していた経験のある者が多い。

年代別にみると、「地域住民が中心のクラブ」は年代が上がるにつれて加入経験率が高くなる一方、「民間の会員制クラブ」は年代が上がるにつれて加入経験率が低くなる。また、「学校OBなどが中心のクラブ」は20歳代、「友人・知人が中心のクラブ」は、30歳代が他の年代よりも比較的高い点が特徴的である。



3-4 | スポーツクラブ・同好会・チームへの加入希望

現在、スポーツクラブ・同好会・チームに加入していない者（加入経験者および未加入者）に、今後の加入希望をたずねた（図3-7）。全体では「加入したいと思う」（加入希望者）は19.6%であり、「加入したいと思わない」（非加入希望者）は80.4%であった。2012年調査では加入希望者の割合は22.5%であり、2.9ポイントの減少となった。

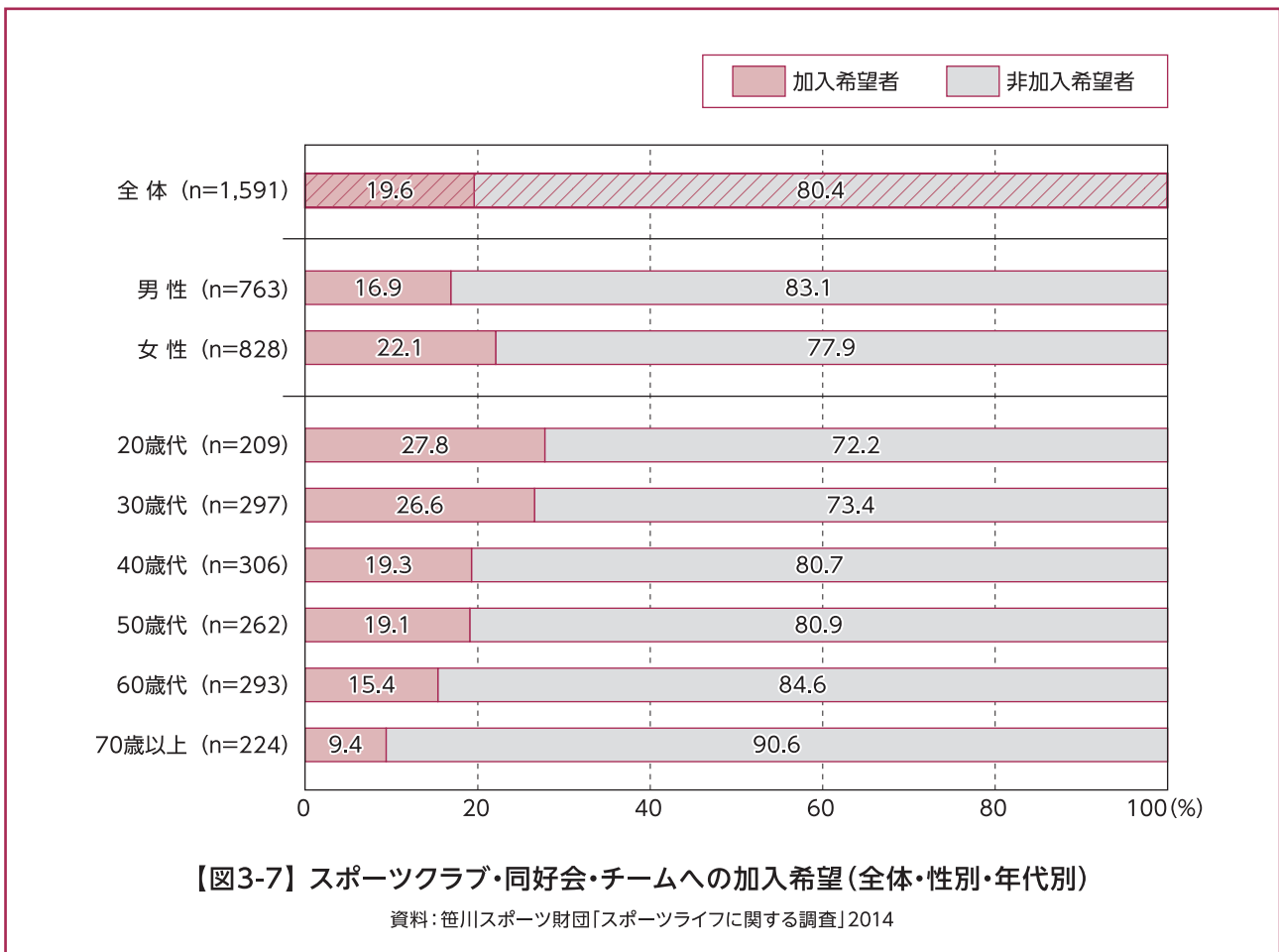
性別にみると、加入希望者の割合は男性が16.9%、女性が22.1%であり、女性が男性を5.2ポイント上回った。この傾向は2012年調査と同様であった。

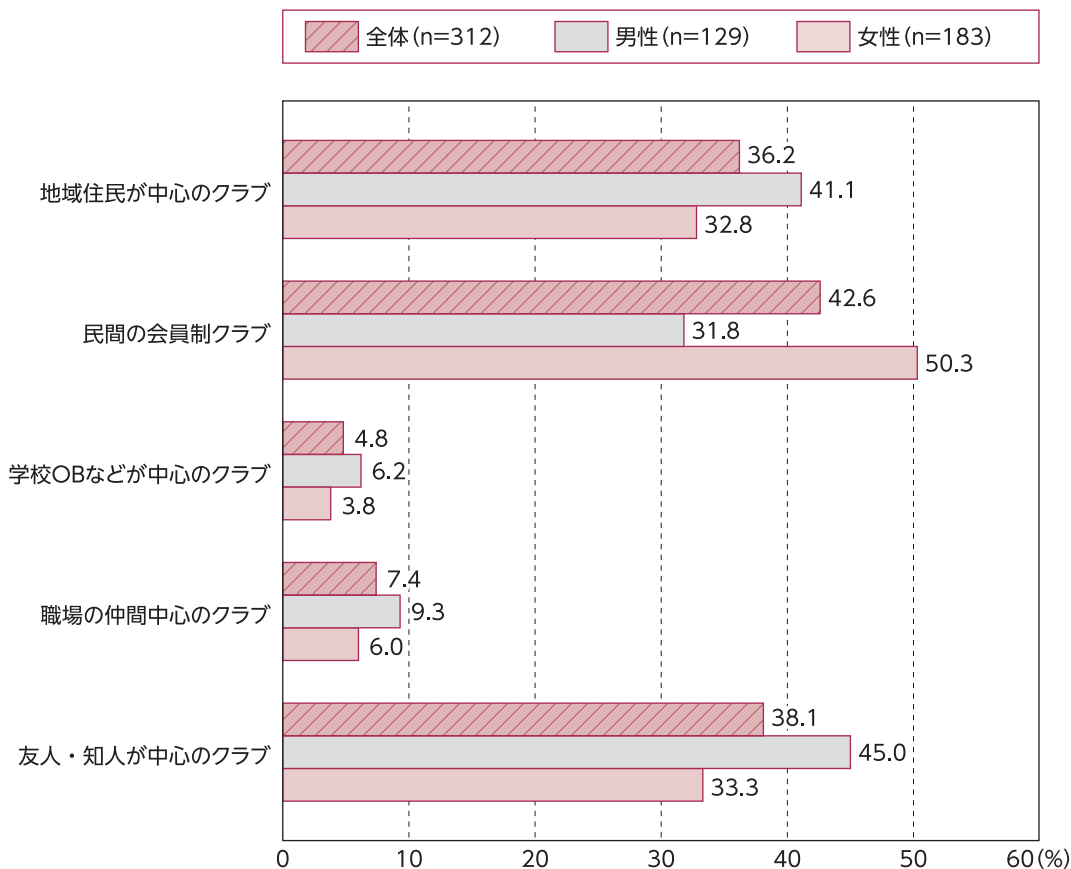
年代別にみると、加入希望者の割合は20歳代が27.8%と最も高く、次いで30歳代26.6%、40歳代19.3%となり、

年代が上がるにつれて減少する。

次に、加入希望者に対して加入したいスポーツクラブの形態をたずねた（図3-8）。全体では、「民間の会員制クラブ」が42.6%と最も高く、次いで「友人・知人が中心のクラブ」38.1%、「地域住民が中心のクラブ」36.2%であった。

性別にみると、男性では「友人・知人が中心のクラブ」が45.0%と最も高く、次いで「地域住民が中心のクラブ」41.1%、「民間の会員制クラブ」31.8%であった。一方、女性では「民間の会員制クラブ」が50.3%と最も高く、「友人・知人が中心のクラブ」33.3%、「地域住民が中心のクラブ」32.8%と続き、男性と女性では加入したいスポーツクラブの形態に違いがみられた。





【図3-8】 加入希望者の今後加入したいスポーツクラブ・同好会・チームの形態(全体・性別:複数回答)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

COMMENTS

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

- 学生時代にバレーボールをやっていたが、社会人になってからはすぐに出来るというわけでもなく残念に思っている。近くでスポーツクラブなども含めて機会があればいいなと日々感じている。
(女性 38歳 専門的・技術的職業)
- 身体を適度に動かすことは健康維持に必要な不可欠なことであるし、スポーツを通して、これから仕事を退職した後、地域とかかわりを持つことが大切だと考えている。
(男性 61歳 管理的職業)
- 地域にもっと高齢者のためのスポーツサークルがあると参加できる機会が増えるのに、と思う。若い人やお勤めをされている方が集まって、夜にスポーツをされているのを見かけますが、そこへは主婦や高齢者、未経験者は参加しにくい。
(女性 55歳 専業主婦)
- 学生時代からバレーボールをやっていて、現在も地域のバレーボールに参加し多くの友人ができました。スポーツをすることで充実した生活を送ることができ、またその環境を与えられていることにとても感謝しています。これからものんびりとスポーツに関わっていただければいいなと思っています。
(女性 43歳 家族従業者)